

今年度も残すところあと僅かとなりました。年度が替わるのに合わせて、新しい仕事に就かれる方も多いのではないかと思います。希望する職種に決まったという方もあれば、残念ながらそうではなかったという方もおられるだろうと思います。

そのようなことが起こる背景として、求職者と求人とのミスマッチを挙げることができそうです。

例えば、事務職を見てもみると、ここで働きたいという人のほうが圧倒的に多いことが分かります。事務職に就きたかったのになかなかあったという声もよく耳にします。

一方で、建設業や製造業を見ても、多くの求人があるにもかかわらず、それが満たされることはまずありません。情報通信関係なども人材を確保するのに苦労していることが見て取れます。

最近、こうした状況を放置しておくことは望ましくないという考えが広がってきました。いろいろな角度からの検討も進められるようになってきました。

その一つは、人の集まりにくい要因をできるだけ減らしていくというものであります。建

設業などにおける身体的負担もその対象であります。あわせて、どうしたら給与をアップできるかという点についても議論が行われています。もう一つのアプローチは、教育の面も含めた改革であります。将来必要とされる人材はどのようなものであるのか、そのためにはどのような教育が望ましいのかというような観点からも検討が進められています。

このような取組がいつどのような形で実を結ぶのか、今後の成り行きに注目していきたいと思えます。

次の話題に移ります。

皆さんは、「釈迦に説法」という言葉を聞いたことはありますか。日常の会話の中ではほとんど使われることはないように思います。

ところが、議会の中ではよく耳にします。検査をかけてみると、その数の多さに驚くかもしれません。

どのような意味なのかということで辞書を引いてみました。そうしましたら、未熟な者が専門家に対して一人前の口を利くことの例えというような説明がありました。

では、なぜこの言葉が議会の中でよく使われ

るのか、私なりにちょっと考えてみました。

まず、議会は言論の場であります。多くの人はそこで自分の考えていることを明らかにしたいと考えていると思います。ところが、その人たちは必ずしも専門家というわけではありません。そういう立場からの発言だということで、言わば予防線を張るような気持ちもあるのではないかと思います。

もう一つは、相手を立てようという気持ちの表れではないかということでもあります。議論を交わす相手に対して、あなたのほうが詳しいと思えます、でも、私にも言わせてくださいというような意識の表れだと考えることもできるように思います。

そういうことを考えてみると、この言葉はなかなか使い勝手のいい言葉のように思えます。ちなみに、この言葉は、昔はよく耳にしたけれども最近あまり聞きませんねというような言葉ではありません。令和の世の中になっても、議会の中ではしっかりと使われています。

こんな言葉に注目しながら議会の中継を見るのも面白いのではないかと思います。(了)